

| | |
|------------------|--|
| Title | COCON : 在宅医療におけるコミュニケーションを促進するアプリケーションとプロダクトのデザイン |
| Sub Title | COCON: Design of an application and product which promote communication in home care |
| Author | 風戸, 恒輔(Kazato, Kosuke) 奥出, 直人(Okude, Naohito) |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 |
| Publication year | 2010 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | <p>本論文では、在宅医療における医師、訪問看護師、ヘルパー、患者、家族といったステークホルダー間での多職種の連携を支援し、より密度の濃いコミュニケーションを生む事ができるアプリケーションであるCOCON HOMEとCOCON OFFICEについて述べる。処置の内容や気になる内容をメモにしてアプリケーションに蓄積する事でステークホルダー間での情報共有を助け、処置時以外にはインタラクティブなフォトフレームとして患者、家族、友人を繋げるコミュニケーションデバイスになる。COCON HOME とOFFICE が中心となり関係する人々を繋げて多職種連携を円滑にすることで、より快適な在宅医療環境を実現し、患者のクオリティ・オブ・ライフの向上を実現することができる。</p> <p>本研究ではステークホルダーへの民族誌的インタビューから、COCONの開発工程として行った全ての過程を述べるとともに、フィールドテストの評価についても言及する。そして在宅医療に関わる全ての人々のコミュニケーションの中心としてCOCONが有用であるかどうかを考察するものである。</p> |
| Notes | 修士学位論文. 2010年度メディアデザイン学 第78号 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002010-0078 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2010 年度 修士論文

COCON:
在宅医療におけるコミュニケーションを促進する
アプリケーションとプロダクトのデザイン

風戸 恒輔

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士(メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

風戸 恒輔

指導教員：

奥出 直人 教授 (主指導教員)

砂原 秀樹 教授 (副指導教員)

審査委員：

奥出 直人 教授 (主査)

砂原 秀樹 教授 (副査)

岸 博幸 教授 (副査)

COCON:
在宅医療におけるコミュニケーションを促進する
アプリケーションとプロダクトのデザイン

内容梗概

本論文では、在宅医療における医師、訪問看護師、ヘルパー、患者、家族といったステークホルダー間での多職種の連携を支援し、より密度の濃いコミュニケーションを生む事ができるアプリケーションである COCON HOME と COCON OFFICE について述べる。処置の内容や気になる内容をメモにしてアプリケーションに蓄積する事でステークホルダー間での情報共有を助け、処置時以外にはインタラクティブなフォトフレームとして患者、家族、友人を繋げるコミュニケーションデバイスになる。COCON HOME と OFFICE が中心となり関係する人々を繋げて多職種連携を円滑にすることで、より快適な在宅医療環境を実現し、患者のクオリティ・オブ・ライフの向上を実現することができる。

本研究ではステークホルダーへの民族誌的インタビューから、COCON の開発工程として行った全ての過程を述べるとともに、フィールドテストの評価についても言及する。そして在宅医療に関わる全ての人々のコミュニケーションの中心として COCON が有用であるかどうかを考察するものである。

キーワード

在宅医療システム、インタラクティブデザイン、ユーザーテスト

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

風戸 恒輔

COCON:
Design of an Application and Product
which Promote Communication in Home Care

Abstract

in this thesis, I am going to write about COCON HOME and COCON OFFICE which enables doctors, domiciliary nurses, helpers, patients, families to communicate more efficiently by supporting their cooperation. COCON helps their information sharing by accumulating their process of treatments, concerns and memos into data base. when they are not operating, COCON turns to be a interactive photo frame which enables patients, families and friends to communicate with it. COCON provides higher quality of life of patients by realizing more comfortable domiciliary medical care surroundings.

this thesis includes ethnographical interview to the stakeholders, all the course of COCON development and evaluations of field tests. this thesis is to examine the value of COCON as a communication tool for all the people who are involved in domiciliary medical care.

Keywords:

Home Care Medical System, Interaction Design, User Test

Graduate School of Media Design, Keio University

Kosuke Kazato